

身だしなみ



## 身だしなみは『無言の紹介状』

「この人はこんな人」というイメージを決めるもの。

自分やサロンがお客さまから信頼されるかどうかは、身だしなみで決まる。

### 身だしなみの基本

#### ◆清潔であること

- ✓ 本当に清潔であることは、見た目にも清潔であること
- ✓ 相手に不快感を与えない (=信頼・配慮)

#### ◆上品であること

- ✓ TPOをわきまえる

#### ◆控えめであること

- ✓ 派手過ぎない (お客様が1番)



同じ服でも着方によって印象は異なる。  
より多くのお客様にとって好印象なのはどちらか？

- 接遇を行う仕事をする上で、美しい身だしなみが求められる理由と、基本的に守るべきことについて理解させる。
- 人は一旦「こんな人」というイメージを持つと、それを前提としてコミュニケーションを図ろうとする。
- これから関係を持とうとする誰かに、はじめに「変な人」「怪しい人」というイメージを持たれてしまうと、マイナスイメージからの出発になるので、良好な関係を築くことが難しく、よりテクニカルになってくる。
- そのため、はじめの印象は非常に重要。
- 視覚の情報は、最も早く相手に伝わる情報であり、相手の初めの印象に大きな影響を与える。
- 見た目で「感じのいい人」「仲良くしたい人」と思ってもらえると、そのスタッフへの警戒感は小さくなる。
- また、人の心理として、自分の直観を確かなものにする情報には敏感になるため、相手の「感じのいい」「仲良くしたい」ところを積極的に見つけてくれ、その後の対応もやりやすくなる。
- このように、お客様との関係を築くのに有利になるよう、自分ができる工夫が「身だしなみを整えること」である。
- 身だしなみは相手の為、おしゃれは自分の為にあるもの、という意識を持って仕事に臨むことが大切。
- 一方、お客様の数は多く、好みも十人十色なので、全ての人にとって「100点」の服装というものはない。
- 身だしなみの基本は、「清潔」「上品」「控えめ」であり、「変な人」「怪しい人」というネガティブイメージを持たれないようにするための、最低合格点となっていればよい。

### 同じ服装でも、誰が見るかによって 「あなたのイメージ」は違ってくる



#### 《Aさんの印象》

とても好みのセンス。  
私もこのような  
スタイルにしてほしい。

#### 《Bさんの印象》

浮ついた感じで  
落ち着かない。  
緊張してしまいそう。

## 大切なのは店の方針に従うこと

### ◆制服がある場合がある

- ✓ 全員が同じであることが重要。（＝統一の美）  
そのための制服なので、形や着こなしは変えない。
- ✓ エプロンだけ、シャツだけ、など一部のみが制服という場合もある。

### ◆私服でも服装や髪形にルールがある場合がある

- ✓ 私服で就業できるが、服の色や髪型に決まりがある場合がある。  
例) トップスは白またはベージュ、ボトムスは黒、ともに無地のもの。  
例) トップスは自由だが、ボトムスはパンツスタイルとする。  
例) 長い髪はアレンジし、顔にかかるないようにする。など

- サロンごとに方針がある理由、方針を守ることの重要性を理解する。
- 既に解説した通り、全ての人にとって「100点」の服装というものはない。
- 美容室で働く人は、多くの場合は美意識が高く、髪型も服装もおしゃれであることが多く、お客様の中には、当然それをおしゃれだと感じてくれるお客様もいる。
- 一方で、人の感じ方は様々であり、そのおしゃれがあまり好きではない、という人もいる。
- 自分でお客様を選ぶことはできない以上、自分のおしゃれを良いと感じてくれるお客様だけが来てくれるとは限らない。
- 何の特徴もないサロンというものはなく、コンセプトがあり、それを表現するスタッフやサロンの内外装があり、それが全体の雰囲気を作っている。
- お客様は、そのような雰囲気をサロン選びの基準としているため、スタッフがサロンの雰囲気に合わせることは統一感を持たせるためにとても重要となる。
- ルールは統一感を持たせるためにあり、全員がルールを守らなければ統一感は生まれない。

## 服の値段は装いの美しさに比例しない

## リーズナブルに揃える

- ✓ **高価な服** = 美しい身だしなみではない。
  - ✓ 着回しできる数を揃えることができるよう、1着にお金をかけすぎない。

## 洋服選択の視点

- ✓ 価格やデザインだけでなく、自分の体に合ったサイズのものを選ぶ。
  - ✓ 手入れしやすい素材のものを選ぶ。

## センス良く着こなすために

- ✓ 服のサイズ、手入れ、着方、合わせ方次第で、センス良く見せることができる。
  - ✓ よく手入れし、整った着こなしをする。



### 洗濯表示を守る



しわを伸ばす



詰め込みすぎない

- 「おしゃれをする」ことがお金をかけることとは一致しないことを理解する。
- どんなに高価でも、素材が良くても、同じ服を休ませずに着続けたり、手入れを怠ったりすれば、汚れが付き、くすみ、傷やはつれなどの傷みみも出る。
- また、同じ服ばかり着ていること自体がおしゃれではない。
- 服を傷ませずにローテーションできるだけの数を揃えるためにも、服はリーズナブルなものを中心に揃えることが望ましい。
- 安ければどんな服でもいい、というわけではない。
- センス良く見えるかどうかには、服のデザインも重要だが、着たときのサイズも重要。
- デザインが良いからと試着せずに買ってしまったり、ちょうどいい物がなかったからと言ってサイズの合わないものを買ってしまったりせず、自分に似合っているか、美しく着ることができているかで選ぶ。
- カジュアルなサロンも多いが、服装はカジュアルでも、だらしない印象にならない着こなしをする。
  - ボタンなどを正しく留める
  - 丁寧に洗濯する
  - アイロンをかける
  - 定期的にクリーニングに出すなどの手入れの工夫が必要。
- 着用前に、生地の伸び・縮み、毛玉がないか確認する。

#### 想定されるお客様

- 美容室で働いているのだから、スタッフはファッションセンスが良いはず。
- 美容師のおしゃれは、見本・参考にしたい。
- センスのいい美容室に通うこと自体が楽しみ。

#### 髪の手入れやヘアスタイルはよく研究する

- ✓ 流行のスタイルを研究し、自分に似合うように取り入れる。
- ✓ 髪がきれいに見えるスタイリングを心がける。

#### 雰囲気を壊していないか注意する

- ✓ カジュアルな雰囲気のサロンや、服装のルールがないサロンでも、派手な服、主張の強い服は避ける。
- ✓ デザイン性の高い服は、危険でないか確認する。



奇抜なもの、挑発的なものなど、主張が強いものは避ける。



袖が広がっているものや、長すぎるものは危険。

- 流行のおしゃれに敏感な層が多く来店する可能性がある店として、スタッフもある程度の流行を捉えた身だしなみが必要であることを理解する。
- 若年・OL層向け店のスタッフは、服装の自由度の高い場合が多い。
- 自主的なおしゃれや、スタッフ同士の練習のため、頻繁に髪色を変えたり、パーマをかけたりするなどして、髪が傷みやすい傾向がある。
- 一方で、美容室は髪を美しく、おしゃれにする店であり、スタッフの髪型が整っていないかったり、毛髪が痛み過ぎたりしているとお客様の信頼は得られにくい。
- また、髪型が整っていないと全体にやぼったい印象になる。
  - 逆に、服装がシンプルでも、髪が美しく、スタイルよくセットされていると全体におしゃれにも見える。
- 髪のプロという意識を持って髪型は整えることが大切。
- 最もおしゃれが求められるタイプのサロンだが、サロンの雰囲気を第一に考えることが大切。
  - 特に、スタッフのたくさん付いた服、ダメージジーンズなどは主張が強すぎるので避けるのが無難。明確に着用を禁止しているサロンもある。
  - 同様の理由で、たくさんのピアスを付けることや、穴が大きいピアス、唇や鼻などのボディピアス、タトゥーも禁止しているサロンが多い。
  - デザイン性の高い服では、袖や裾に動きのあるものが多いので、危険でないか十分に注意する。
- おしゃれな服装をすることは大切だが、高価なものをたくさん買いそろえることはないし、実際にそれは難しい場合が多いはず。
- 洗濯やアイロン、保管などの管理を丁寧にし、ボタンやベルトなどの細部をきれいにまとめることで、リーズナブルなものでもおしゃれに見せることは十分できる。

### 想定されるお客様

- 時間やお金の使い道は、美容だけではない。
- リラックスしたいので、親しげな雰囲気であってほしい。

### シンプルな着こなし

- ✓ 年ごとの流行に左右されない、シンプルなデザインのものを着用する。
- ✓ 小物使いなど、若さに頼らずに真似できそうなおしゃれをする。



### 自然なメイク

- ✓ だらしない印象にならないよう、メイクは丁寧に行う。
- ✓ 厚化粧にならないよう自然なメイクを心がける。

- お客様に「自分と近しい人」という意識で接してもらえるような身だしなみが求められることを理解する。
- スタッフと顧客の年齢が離れている分、街中で目を引くような華やかなおしゃれをしたスタッフばかりでは、場違いさ、居心地の悪さを感じるお客様もいる。
- また、若者だけに流行しているデザインの服も、お客様によっては浮ついた印象を持つ場合がある。
- お客様に気持ちよく過ごしていただけないことは、自分にとってマイナスになる。
- 年配の方も多く来店するような店舗では、際立ったおしゃれではなく、シンプルで落ち着いた服装が求められる。
- 当然ながら、美容室スタッフが「ダサい」のは望ましくない。
- 服装はシンプルにまとめつつ、小物を取り入れるなどして、センス良く見せることも重要。
- 洋服同様、化粧も派手なものは控える。
- 一方で、スタッフが化粧をしていない、または雑であれば、お客様が美容室に対して抱いている「特別な時間」のイメージが損なわれる。
- 肌がきれいに、自然に見えるよう、丁寧に化粧をする。

### 想定されるお客様

- 自分が特別な存在になれる時間・空間を求める。
- サロン・スタッフ共に落ち着いた雰囲気の中で過ごしたい。

### 礼儀正しさを表現する身だしなみ

- ✓ お客様は、スタッフ教育の行き届いたサロンだという前提で来店する。
- ✓ フォーマルな印象を与える身だしなみを心がける。

### 派手にならないシンプルな服装

- ✓ 色や柄に注意し、控えめな着こなしをする。
- ✓ お客様の装いが際立つよう、アクセサリーなどは付けない、または目立たないようにする。

### 自然なメイク

- ✓ 基本的には中高年層向け店同様、自然なメイクをする。
- ✓ 服装に合わせ、アイシャドウやチークの色も控えめにする。



落ち着いた雰囲気のサロンでは雰囲気に合った身だしなみが必要

- 日ごろから上質なサービスに慣れ、それが普通であると感じているお客様にとって、どのような外見であれば信頼感を抱くことができるのかを理解する。
- 高級サロンは価格が高い分、お客様も、技術力が高いのは当然として、プラスアルファでの価値を求めており、スタッフにもきちんとした教育がされているだろうことを期待している。
- 身だしなみも失礼のないように、最大級のおもてなしを表現するものなくてはならない。
- 本当のフォーマルでなくて良いが、正装を意識させるような服装であることが望ましい。
- この層のお客様にとって、スタッフはおしゃれの見本ではなく、黒子である。
- 主役であるお客様が引き立つよう、スタッフは控えめな服装が良い。
- 化粧をしていないのは失礼にあたるが、派手さは不要。
- 自然な感じに見えるよう、ベースメイクを工夫し、ポイントメイクは控えめにする。
- サロンが写真にあるような雰囲気であった場合の身だしなみについて、生徒に意見を求める。
  - 服の種類
  - 髮型
  - 化粧
  - 髪